

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート

9

(様式1)

事業者名

遠州鉄道株式会社

系統名(起点～経由地～終点)

城之崎線(磐田駅～東新町～浅羽中学)

計画策定年度 平成30年度

運行期間 平成30年10月1日～令和元年9月30日

評価年度 令和元年度

(1) 基本的事項

項目	基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価	備考
主な運行目的	事業者記載事項	—	別紙	A B・C	A: 運行目的どおり適切に実施 B: 減便・系統短縮等、運行目的どおり実施されていない点があった C: 運行目的どおり実施されなかった(路線廃止)
増収策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有・無	事業者ごとの取組を記載
費用削減策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有・無	事業者ごとの取組を記載

(2) 各項目の評価

項目	評価基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価点数	評価	備考
運行回数	事業者計画数と運行実績との比較	(2,369.0)回 (6.4回/日)	(2,361.0)回 (6.4回/日)	0	計画数以上 3点 計画数未満 0点 (国土交通大臣が認める除外運行回数は除く)	計画(目標)は表2記載のもの
収支率	実績収支率	51.4%	51.1%	15	～29% 0点 30～34% 3点 35～39% 6点 40～44% 9点 45～49% 12点 50～54% 15点 55%～ 18点	
乗車人員	計画人員と運行実績との比較	58,703人	62,152人	6	計画数+5% 6点 計画数±5% 3点 計画数-5%未満 0点	
ネットワーク構成	他の系統の乗換可能なアクセス拠点(バス停等)の数	—	拠点(1)箇所 バス停(5)箇所	7	拠点(駅・BT) 1件2点 その他のバス停 1件1点 限度20点	主な拠点及びバス停を別紙に記載
広域トリップ状況	市町跨ぎの移動割合(H13.3.31現在の市町)(運行実績による)	—	12.7%	10	～4% 0点 5～9% 5点 10～14% 10点 15～19% 15点 20%～ 20点	
公共施設・拠点施設アクセス状況	実施設数(バス停から半径500m以内に存在する学校(小・中・高・大・専門学校)病院(主なもので可)拠点商業施設・企業(主なもので可)その他(官公庁・駅等)	—	浅羽中学 浅羽北小 袋井市浅羽支所 NTN磐田製作所 JR磐田駅	/	—	
キロ当たり経費	補助対象年度の前年度の国が定める地域キロ当たり経常費用単価との比較	—	385.19円	0	単価以上 0点 単価～-5% 3点 単価-6～-10% 6点 単価-11～-15% 9点 単価-16～-20%超 12点	
合計				38	評価指標	A・B・C

A(52～79点): 地域間幹線系統として優れた役割を果たしている  
B(26～51点): 地域間幹線系統として適した運行となっている  
C(～25点): 地域間幹線系統として改善に努力を要する

## 地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート(別紙)

### (1) 基本的事項

項 目	内 容
主な運行目的	旧浅羽町中心部より団地を經由して磐田駅に至る路線。代替の交通機関もないため、地域住民の通勤、通学の手段として欠かせない路線となっており、路線の維持とともに輸送量15人の確保を目標とする。
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>・グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ(自動積み増し)の利用を促進。</li> <li>・小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>・運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与(ICカード読み取り機「トップタッチ」の活用)。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成(平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施)。</li> <li>・ICカード乗車券のオートチャージ(自動積み増し)の利用を促進。</li> <li>・小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>・浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>・高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>・定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>・2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>
費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>・営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた(平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖)</li> <li>・60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>・バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>

### (2) 各項目の評価

項 目	内 容
ネットワーク構成	<p>(主な乗換え拠点・バス停)</p> <p>【拠点】 磐田駅</p> <p>【バス停】 城之崎・西貝塚北・東貝塚・東新町・新出</p>
公共施設 拠点施設 アクセス状況	<p>(バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設)</p> <p>浅羽中学・浅羽北小・袋井市浅羽支所・NTN磐田製作所・JR磐田駅</p>

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	城之崎線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	磐田駅	東新町	浅羽中学		
系統キロ程 (km)	11.0	輸送量 (人/日)	22.4		
平均乗車密度 (人/便)	3.5	運行回数 (回/日)	6.4		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浅羽中学校、浅羽北小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	袋井市浅羽支所、NTT磐田製作所、JR磐田駅			
収支率 (%) (収益/費用)	51.1		乗車人員 (人)	62,152	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停5	名称	拠点：JR磐田駅 バス停：城之崎、西貝塚北、東貝塚、東新町、新出		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	12.7				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トップタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>				
費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>				
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート

10.1

(様式1)

事業者名

遠州鉄道株式会社

系統名(起点～経由地～終点)

磐田市立病院福田線(磐田市立病院～磐田駅～豊浜郵便局)

計画策定年度 平成30年度

運行期間 平成30年10月1日～平成31年3月31日

評価年度

令和元年度

(1) 基本的事項

項目	基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価	備考
主な運行目的	事業者記載事項	—	別紙	A B · C	A: 運行目的どおり適切に実施 B: 減便・系統短縮等、運行目的どおり実施されていない点があった C: 運行目的どおり実施されなかった(路線廃止)
増収策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有 · 無	事業者ごとの取組を記載
費用削減策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有 · 無	事業者ごとの取組を記載

(2) 各項目の評価

項目	評価基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価点数	評価	備考
運行回数	事業者計画数と運行実績との比較	(2,240.0)回 (12.3回/日)	(2,296.5)回 (12.6回/日)	3	計画数以上 3点 計画数未満 0点 (国土交通大臣が認める除外運行回数は除く)	計画(目標)は表2記載のもの
収支率	実績収支率	56.1%	67.1%	18	～29% 0点 30～34% 3点 35～39% 6点 40～44% 9点 45～49% 12点 50～54% 15点 55%～ 18点	
乗車人員	計画人員と運行実績との比較	84,461人	103,861人	6	計画数+5% 6点 計画数±5% 3点 計画数-5%未満 0点	
ネットワーク構成	他の系統の乗換可能なアクセス拠点(バス停等)の数	—	拠点(1)箇所 バス停(11)箇所	13	拠点(駅・BT) 1件2点 その他のバス停 1件1点 限度20点	主な拠点及びバス停を別紙に記載
広域トリップ状況	市町跨ぎの移動割合(H13.3.31現在の市町)(運行実績による)	—	32.5%	20	～4% 0点 5～9% 5点 10～14% 10点 15～19% 15点 20%～ 20点	
公共施設・拠点施設アクセス状況	実施施設数(バス停から半径500m以内に存在する学校(小・中・高・大・専門学校)病院(主なもので可)拠点商業施設・企業(主なもので可)その他(官公庁・駅等)	—	磐田南高 磐田北小 磐田市役所 磐田市福田支所 新都市病院 磐田市立病院 JR磐田駅	-	-	
キロ当たり経費	補助対象年度の前年度の国が定める地域キロ当たり経常費用単価との比較	—	385.19円	0	単価以上 0点 単価～-5% 3点 単価-6～-10% 6点 単価-11～-15% 9点 単価-16～-20%超 12点	
合計				60	評価指標	A · B · C

A(52～79点): 地域間幹線系統として優れた役割を果たしている  
B(26～51点): 地域間幹線系統として適した運行となっている  
C(～25点): 地域間幹線系統として改善に努力を要する

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート(別紙)

(1) 基本的事項

項目	内容
主な運行目的	旧福田町から磐田駅を経由し、磐田市立病院へと至る路線。代替の交通機関もないため、地域住民の通勤、通学及び通院の手段として、欠かせない路線となっており、路線の維持とともに輸送量15人の確保を目標とする。
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ(自動積み増し)の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与(ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用)。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成(平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施)。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ(自動積み増し)の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>
費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた(平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖)</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>

(2) 各項目の評価

項目	内容
ネットワーク構成	<p>(主な乗換え拠点・バス停)</p> <p>【拠点】 磐田駅</p> <p>【バス停】 磐田市立病院・大久保東原・二階家・井戸ヶ谷・磐田北小・西坂町・加茂川 新道・前嶋・福田交番前・福田営業所</p>
公共施設 拠点施設 アクセス状況	<p>(バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設)</p> <p>磐田南高・磐田北小・磐田市役所・磐田市福田支所・新都市病院・磐田市立病院・JR磐田駅</p>

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	磐田市立病院福田線（10.1）			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	磐田市立病院	磐田駅	豊浜郵便局		
系統キロ程（km）	19.6	輸送量（人/日）	65.5		
平均乗車密度（人/便）	5.2	運行回数（回/日）	12.6		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	磐田南高校、磐田北小学校			
	病院	新都市病院、磐田市立病院			
	商業施設				
	その他	磐田市役所、磐田市福田支所、JR磐田駅			
収支率（%） （収益/費用）	67.1		乗車人員（人）	103,861	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停11	名称	拠点：JR磐田駅 バス停：磐田市立病院、大久保東原、二階家、井戸ヶ谷、磐田北小、西坂町、加茂川、新道、前嶋、福田交番前、福田営業所		
広域利用状況（%） （他市町へ跨ぐ利用者の割合）	32.5				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>				
	費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>広域利用状況(%) 100</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20</p>				

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート

10.2

(様式1)

事業者名

遠州鉄道株式会社

系統名(起点～経由地～終点)

磐田市立病院福田線(磐田市立病院～磐田駅～豊浜郵便局)

計画策定年度 平成30年度

運行期間 平成31年4月1日～令和元年9月30日

評価年度 令和元年度

(1) 基本的事項

項目	基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価	備考
主な運行目的	事業者記載事項	—	別紙	A B · C	A: 運行目的どおり適切に実施 B: 減便・系統短縮等、運行目的どおり実施されていない点があった C: 運行目的どおり実施されなかった(路線廃止)
増収策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有 · 無	事業者ごとの取組を記載
費用削減策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有 · 無	事業者ごとの取組を記載

(2) 各項目の評価

項目	評価基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価点数	評価	備考
運行回数	事業者計画数と運行実績との比較	(2,253.5)回 (12.3回/日)	(2,298.0)回 (12.5回/日)	3	計画数以上 3点 計画数未満 0点 (国土交通大臣が認める除外運行回数は除く)	計画(目標)は表2記載のもの
収支率	実績収支率	56.1%	64.6%	18	～29% 0点 30～34% 3点 35～39% 6点 40～44% 9点 45～49% 12点 50～54% 15点 55%～ 18点	
乗車人員	計画人員と運行実績との比較	87,874人	105,042人	6	計画数+5% 6点 計画数±5% 3点 計画数-5%未満 0点	
ネットワーク構成	他の系統の乗換可能なアクセス拠点(バス停等)の数	—	拠点(1)箇所 バス停(11)箇所	13	拠点(駅・BT) 1件2点 その他のバス停 1件1点 限度20点	主な拠点及びバス停を別紙に記載
広域トリップ状況	市町跨ぎの移動割合(H13.3.31現在の市町)(運行実績による)	—	28.4%	20	～4% 0点 5～9% 5点 10～14% 10点 15～19% 15点 20%～ 20点	
公共施設・拠点施設アクセス状況	実施施設数(バス停から半径500m以内に存在する学校(小・中・高・大・専門学校)病院(主なもので可)拠点商業施設・企業(主なもので可)その他(官公庁・駅等)	—	磐田南高 磐田北小 磐田市役所 磐田市福田支所 新都市病院 磐田市立病院 JR磐田駅	-	-	
キロ当たり経費	補助対象年度の前年度の国が定める地域キロ当たり経常費用単価との比較	—	385.19円	0	単価以上 0点 単価～-5% 3点 単価-6～-10% 6点 単価-11～-15% 9点 単価-16～-20%超 12点	
合計				60	評価指標	A · B · C

A(52～79点): 地域間幹線系統として優れた役割を果たしている  
B(26～51点): 地域間幹線系統として適した運行となっている  
C(～25点): 地域間幹線系統として改善に努力を要する

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート(別紙)

(1) 基本的事項

項目	内容
主な運行目的	旧福田町から磐田駅を経由し、磐田市立病院へと至る路線。代替の交通機関もないため、地域住民の通勤、通学及び通院の手段として、欠かせない路線となっており、路線の維持とともに輸送量15人の確保を目標とする。
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ(自動積み増し)の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与(ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用)。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成(平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施)。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ(自動積み増し)の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>
費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた(平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖)</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>

(2) 各項目の評価

項目	内容
ネットワーク構成	<p>(主な乗換え拠点・バス停)</p> <p>【拠点】 磐田駅</p> <p>【バス停】 磐田市立病院・大久保東原・二階家・井戸ヶ谷・磐田北小・西坂町・加茂川 新道・前嶋・福田交番前・福田営業所</p>
公共施設 拠点施設 アクセス状況	<p>(バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設)</p> <p>磐田南高・磐田北小・磐田市役所・磐田市福田支所・新都市病院・磐田市立病院・JR磐田駅</p>

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	磐田市立病院福田線（10.2）			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	磐田市立病院	磐田駅	豊浜郵便局		
系統キロ程（km）	19.6	輸送量（人/日）	62.5		
平均乗車密度（人/便）	5.0	運行回数（回/日）	12.5		
公共・拠点施設状況	学校	磐田南高校、磐田北小学校			
	病院	新都市病院、磐田市立病院			
	商業施設				
	その他	磐田市役所、磐田市福田支所、JR磐田駅			
収支率（%） （収益/費用）	64.6		乗車人員（人）	105,042	
乗換可能なアクセス拠点等	拠点1 バス停11	名称	拠点：JR磐田駅 バス停：磐田市立病院、大久保東原、二階家、井戸ヶ谷、磐田北小、西坂町、加茂川、新道、前嶋、福田交番前、福田営業所		
広域利用状況（%） （他市町へ跨ぐ利用者の割合）	28.4				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いくれじカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>				
	費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20</p> <p>広域利用状況(%) 100</p>				

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート

11

(様式1)

事業者名

遠州鉄道株式会社

系統名(起点～経由地～終点)

中ノ町磐田線(浜松駅～中ノ町～磐田営業所)

計画策定年度 平成30年度

運行期間 平成30年10月1日～令和元年9月30日

評価年度

令和元年度

(1) 基本的事項

項目	基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価	備考
主な運行目的	事業者記載事項	—	別紙	A · B · C	A: 運行目的どおり適切に実施 B: 減便・系統短縮等、運行目的どおり実施されていない点があった C: 運行目的どおり実施されなかった(路線廃止)
増収策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有 · 無	事業者ごとの取組を記載
費用削減策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有 · 無	事業者ごとの取組を記載

(2) 各項目の評価

項目	評価基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価点数	評価	備考
運行回数	事業者計画数と運行実績との比較	(7,238.0)回 (19.8回/日)	(7,229.5)回 (19.8回/日)	0	計画数以上 3点 計画数未満 0点 (国土交通大臣が認める除外運行回数は除く)	計画(目標)は表2記載のもの
収支率	実績収支率	72.1%	72.7%	18	~29% 0点 30~34% 3点 35~39% 6点 40~44% 9点 45~49% 12点 50~54% 15点 55%~ 18点	
乗車人員	計画人員と運行実績との比較	382,960人	412,038人	6	計画数+5% 6点 計画数±5% 3点 計画数-5%未満 0点	
ネットワーク構成	他の系統の乗換可能なアクセス拠点(バス停等)の数	—	拠点(2)箇所 バス停(8)箇所	12	拠点(駅・BT) 1件2点 その他のバス停 1件1点 限度20点	主な拠点及びバス停を別紙に記載
広域トリップ状況	市町跨ぎの移動割合(H13.3.31現在の市町)(運行実績による)	—	12.8%	10	~4% 0点 5~9% 5点 10~14% 10点 15~19% 15点 20%~ 20点	
公共施設・拠点施設アクセス状況	実施施設数(バス停から半径500m以内に存在する学校(小・中・高・大・専門学校)病院(主なもので可)拠点商業施設・企業(主なもので可)その他(官公庁・駅等)	—	西遠学園 磐田西高 磐田南高 中ノ町小学校 磐田西小 磐田市役所 JR浜松駅 JR磐田駅	/	—	
キロ当たり経費	補助対象年度の前年度の国が定める地域キロ当たり経常費用単価との比較	—	385.19円	0	単価以上 0点 単価~-5% 3点 単価-6~-10% 6点 単価-11~-15% 9点 単価-16~-20%超 12点	
合計				46	評価指標	A · B · C

A(52~79点): 地域間幹線系統として優れた役割を果たしている  
B(26~51点): 地域間幹線系統として適した運行となっている  
C( ~25点): 地域間幹線系統として改善に努力を要する

## 地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート(別紙)

### (1) 基本的事項

項 目	内 容
主な運行目的	<p>浜松駅から旧豊田町・磐田駅を経由し、磐田市東部に至る路線。代替の交通機関もないため、地域住民の通勤、通学の手段としての他、JR駅への接続の手段として欠かせない路線となっており、路線の維持とともに輸送量15人の確保を目標とする。</p>
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>・グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ(自動積み増し)の利用を促進。</li> <li>・小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>・運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与(ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用)。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成(平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施)。</li> <li>・ICカード乗車券のオートチャージ(自動積み増し)の利用を促進。</li> <li>・小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>・浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>・高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>・定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>・2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>
費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>・営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた(平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖)</li> <li>・60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>・バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>

### (2) 各項目の評価

項 目	内 容
ネットワーク構成	<p>(主な乗換え拠点・バス停)</p> <p>【拠点】</p> <p>浜松駅バスターミナル・磐田駅</p> <p>【バス停】</p> <p>広小路・子安・磐田石原・加茂川・国道加茂川・見付・富士見町・磐田営業所</p>
公共施設 拠点施設 アクセス状況	<p>(バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設)</p> <p>西遠学園・磐田西高・磐田南高・中ノ町小学校・磐田西小・磐田市役所・JR浜松駅・JR磐田駅</p>

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

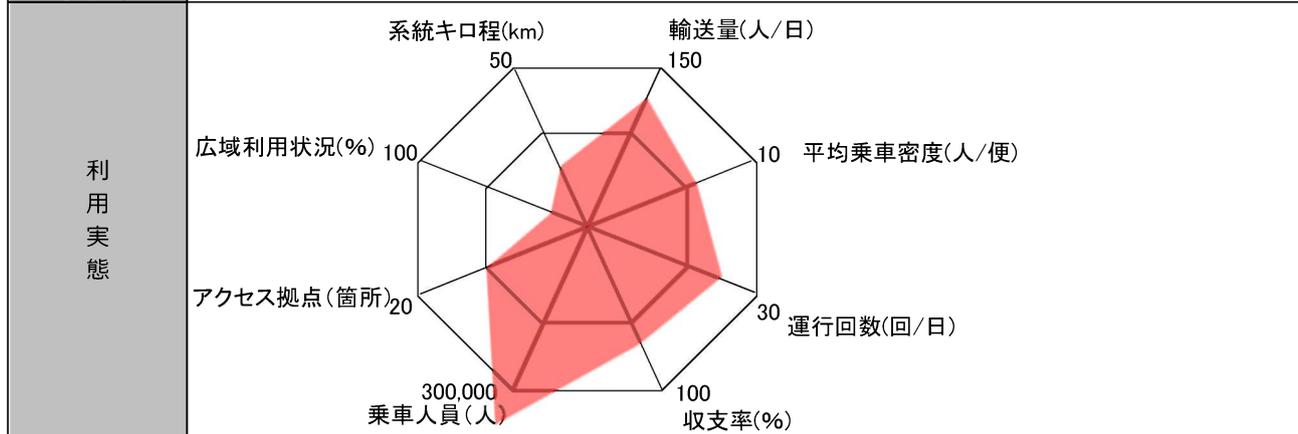
様式2

系統名	中ノ町磐田線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	中ノ町	磐田営業所		
系統キロ程 (km)	17.4	輸送量 (人/日)	122.7		
平均乗車密度 (人/便)	6.2	運行回数 (回/日)	19.8		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	西遠学園、磐田西高校、磐田南高校、中ノ町小学校、磐田西小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	磐田市役所、JR浜松駅、JR磐田駅			
収支率 (%) (収益/費用)	72.7		乗車人員 (人)	412,038	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停 8	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル、磐田駅 バス停：広小路、子安、磐田石原、加茂川、国道加茂川、見付、富士見町、磐田営業所		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	12.8				

増収策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業者としての取組</li> <li>【計画】</li> <li>・運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>・グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>・小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>・運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トップタッチ」の活用）。</li> <li>【実績】</li> <li>・運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>・ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>・小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>・浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>・高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>・定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>・2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>
-----	---

費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業者としての取組</li> <li>【計画】</li> <li>・デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> <li>【実績】</li> <li>・デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>・営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>・60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>・バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>
-------	--

沿線市町のサポート



事業者名

遠州鉄道株式会社

系統名(起点～経由地～終点)

磐田天竜線(山東～新開～磐田駅)

計画策定年度 平成30年度

運行期間 平成30年10月1日～令和元年9月30日

評価年度

令和元年度

(1) 基本的事項

項目	基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価	備考
主な運行目的	事業者記載事項	—	別紙	A・B・C	A: 運行目的どおり適切に実施 B: 減便・系統短縮等、運行目的どおり実施されていない点があった C: 運行目的どおり実施されなかった(路線廃止)
増収策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有・無	事業者ごとの取組を記載
費用削減策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有・無	事業者ごとの取組を記載

(2) 各項目の評価

項目	評価基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価点数	評価	備考
運行回数	事業者計画数と運行実績との比較	(2,896.0)回 (7.9回/日)	(2,878.5)回 (7.9回/日)	0	計画数以上 3点 計画数未満 0点 (国土交通大臣が認める除外運行回数は除く)	計画(目標)は表2記載のもの
収支率	実績収支率	60.7%	62.9%	18	~29% 0点 30~34% 3点 35~39% 6点 40~44% 9点 45~49% 12点 50~54% 15点 55%~ 18点	
乗車人員	計画人員と運行実績との比較	106,367人	107,801人	3	計画数+5% 6点 計画数±5% 3点 計画数-5%未満 0点	
ネットワーク構成	他の系統の乗換可能なアクセス拠点(バス停等)の数	—	拠点(2)箇所 バス停(10)箇所	14	拠点(駅・BT) 1件2点 その他のバス停 1件1点 限度20点	主な拠点及びバス停を別紙に記載
広域トリップ状況	市町跨ぎの移動割合(H13.3.31現在の市町)(運行実績による)	—	66.5%	20	~4% 0点 5~9% 5点 10~14% 10点 15~19% 15点 20%~ 20点	
公共施設・拠点施設アクセス状況	実施施設数(バス停から半径500m以内に存在する学校(小・中・高・大・専門学校)病院(主なもので可)拠点商業施設・企業(主なもので可)その他(官公庁・駅等)	—	天竜高校 磐田南高 磐田西小 磐田市役所 中遠総合庁舎 天竜区役所 JR磐田駅 遠鉄西鹿島駅 天浜豊岡駅 天浜二俣駅	—	—	
キロ当たり経費	補助対象年度の前年度の国が定める地域キロ当たり経常費用単価との比較	—	385.19円	0	単価以上 0点 単価~-5% 3点 単価-6~-10% 6点 単価-11~-15% 9点 単価-16~-20%超 12点	
合計				55	評価指標	A・B・C

A(52~79点): 地域間幹線系統として優れた役割を果たしている  
B(26~51点): 地域間幹線系統として適した運行となっている  
C( ~25点): 地域間幹線系統として改善に努力を要する

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート(別紙)

(1) 基本的事項

項目	内容
主な運行目的	旧天竜市中心部と磐田市中心部を結ぶ路線。代替の交通機関もないため、地域住民の通勤、通学及び日中の移動の手段として、欠かせない路線となっており、路線の維持とともに輸送量15人の確保を目標とする。
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ(自動積み増し)の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与(ICカード読み取り機「トップタッチ」の活用)。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成(平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施)。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ(自動積み増し)の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>
費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた(平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖)</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>

(2) 各項目の評価

項目	内容
ネットワーク構成	<p>(主な乗換え拠点・バス停)</p> <p>【拠点】</p> <p>二俣駅・磐田駅</p> <p>【バス停】</p> <p>山東・二俣横町・秋野不矩美術館入口・寺谷上・火ノ見・匂坂中村・三ツ入下 宝新道・西坂町・加茂川</p>
公共施設 拠点施設 アクセス状況	<p>(バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設)</p> <p>天竜高校・磐田南高・磐田西小・磐田市役所・中遠総合庁舎 天竜区役所・JR磐田駅・遠鉄西鹿島駅・天浜豊岡駅・天浜二俣駅</p>

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	磐田天竜線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	山東	新開	磐田駅		
系統キロ程（km）	21.7	輸送量（人/日）	42.6		
平均乗車密度（人/便）	5.4	運行回数（回/日）	7.9		
公共・拠点施設	学校	天竜高校、磐田南高校、磐田西小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	県中遠総合庁舎、磐田市役所、浜松市天竜区役所、JR磐田駅、遠鉄西鹿島駅、天竜浜名湖鉄道豊岡、二俣駅			
収支率（%） （収益/費用）	62.9		乗車人員（人）	107,801	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停10	名称	拠点：JR磐田駅、天竜浜名湖鉄道二俣駅 バス停：山東、二俣横町、秋野不知美術館入口、寺谷上、火ノ見、匂坂中村、三ツ入下、宝新道、西坂町、加茂川		
広域利用状況（%） （他市町へ跨ぐ利用者の割合）	66.5				
増収策	●事業者としての取組				
	<p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>				
費用削減策	●事業者としての取組				
	<p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>				
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>広域利用状況(%) 100</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20</p>				

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート

16

(様式1)

事業者名

遠州鉄道株式会社

系統名(起点～経由地～終点)

磐田天竜線(山東～ららぽーと磐田～磐田駅)

計画策定年度 平成30年度

運行期間 平成30年10月1日～令和元年9月30日

評価年度 令和元年度

(1) 基本的事項

項目	基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価	備考
主な運行目的	事業者記載事項	—	別紙	A・B・C	A: 運行目的どおり適切に実施 B: 減便・系統短縮等、運行目的どおり実施されていない点があった C: 運行目的どおり実施されなかった(路線廃止)
増収策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有・無	事業者ごとの取組を記載
費用削減策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有・無	事業者ごとの取組を記載

(2) 各項目の評価

項目	評価基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価点数	評価	備考
運行回数	事業者計画数と運行実績との比較	(6,476.0)回 (17.7回/日)	(6,429.5)回 (17.6回/日)	0	計画数以上 3点 計画数未満 0点 (国土交通大臣が認める除外運行回数は除く)	計画(目標)は表2記載のもの
収支率	実績収支率	55.3%	48.1%	12	~29% 0点 30~34% 3点 35~39% 6点 40~44% 9点 45~49% 12点 50~54% 15点 55%~ 18点	
乗車人員	計画人員と運行実績との比較	269,164人	247,708人	0	計画数+5% 6点 計画数±5% 3点 計画数-5%未満 0点	
ネットワーク構成	他の系統の乗換可能なアクセス拠点(バス停等)の数	—	拠点(2)箇所 バス停(10)箇所	14	拠点(駅・BT) 1件2点 その他のバス停 1件1点 限度20点	主な拠点及びバス停を別紙に記載
広域トリップ状況	市町跨ぎの移動割合(H13.3.31現在の市町)(運行実績による)	—	31.8%	20	~4% 0点 5~9% 5点 10~14% 10点 15~19% 15点 20%~ 20点	
公共施設・拠点施設アクセス状況	実施施設数(バス停から半径500m以内に存在する学校(小・中・高・大・専門学校)病院(主なもので可)拠点商業施設・企業(主なもので可)その他(官公庁・駅等)	—	天竜高校 磐田南高 磐田西小 磐田市役所 中遠総合庁舎 天竜区役所 ららぽーと磐田 JR磐田駅 遠鉄西鹿島駅 天浜豊岡駅 天浜二俣駅	—	—	
キロ当たり経費	補助対象年度の前年度の国が定める地域キロ当たり経常費用単価との比較	—	385.19円	0	単価以上 0点 単価~-5% 3点 単価-6~-10% 6点 単価-11~-15% 9点 単価-16~-20%超 12点	
合計				46	評価指標	A・B・C

A(52~79点): 地域間幹線系統として優れた役割を果たしている  
B(26~51点): 地域間幹線系統として適した運行となっている  
C( ~25点): 地域間幹線系統として改善に努力を要する

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート(別紙)

(1) 基本的事項

項目	内容
主な運行目的	旧天竜市中心部から大型商業施設を経由し磐田市中心部を結ぶ路線。代替の交通機関もないため、地域住民の通勤、通学及び日中の移動の手段として、欠かせない路線となっており、路線の維持とともに輸送量15人の確保を目標とする。
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ(自動積み増し)の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与(ICカード読み取り機「トップタッチ」の活用)。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成(平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施)。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ(自動積み増し)の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>
費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた(平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖)</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>

(2) 各項目の評価

項目	内容
ネットワーク構成	<p>(主な乗換え拠点・バス停)</p> <p>【拠点】</p> <p>二俣駅・磐田駅</p> <p>【バス停】</p> <p>山東・二俣横町・秋野不矩美術館入口・寺谷上・火ノ見・匂坂中村・三ツ入下 宝新道・西坂町・加茂川</p>
公共施設 拠点施設 アクセス状況	<p>(バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設)</p> <p>天竜高校・磐田南高・磐田西小・磐田市役所・中遠総合庁舎・天竜区役所 ららぽーと磐田・JR磐田駅・遠鉄西鹿島駅・天浜豊岡駅・天浜二俣駅</p>

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	磐田天竜線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	山東	ららぽーと 磐田	磐田駅		
系統キロ程（km）	24.7	輸送量（人/日）	72.1		
平均乗車密度（人/便）	4.1	運行回数（回/日）	17.6		
公共・拠点 アクセス 状況 施設	学校	天竜高校、磐田南高校、磐田西小学校			
	病院				
	商業施設	ららぽーと磐田			
	その他	県中遠総合庁舎、磐田市役所、浜松市天竜区役所、JR磐田駅、遠鉄西鹿島駅、天竜浜名湖鉄道豊岡、二俣駅			
収支率（%） （収益/費用）	48.1		乗車人員（人）	247,708	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停10	名称	拠点：JR磐田駅、天竜浜名湖鉄道二俣駅 バス停：山東、二俣横町、秋野不知美術館入口、寺谷上、火ノ見、匂坂中村、三ツ入下、宝新道、西坂町、加茂川		
広域利用状況（%） （他市町へ跨ぐ利用者の割合）	31.8				
増収策	●事業者としての取組				
	<p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>				
費用削減策	●事業者としての取組				
	<p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>				
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20</p> <p>広域利用状況(%) 100</p>				